

# 在宅勤務を導入するための CISOのチェックリスト



世界情勢の変化によって、セキュリティを犠牲にすることなく迅速に在宅勤務を可能にすることが求められている中で、CISOの活躍が期待されています。  
**CISOが考慮すべき6点の項目を以下にまとめました。**



## 仕事に 優先順位を付ける

最もクリティカルな仕事はどれか？  
必要なリソースは何か？  
延期できる仕事はどれか？



## デバイスに 優先順位を付ける

組織によっては、リモートワークへの移行に重点を置いていなかったため、限られた数の携帯デバイスを誰が使用するか等といった優先順位を決める必要があります。



## 仕事の 時間をずらす

接続の制限の問題を解決するため、状況によっては、ミッションクリティカルな作業を深夜の時間帯に切り替える等といった対応を求められる場合があります。



## アクセスに 優先順位を付ける

どの仕事に常時接続が必要で、どの仕事に不定期接続が必要ですか？ 作業の優先順位に基づいて、従業員に対して「段階的な」接続を提供します。



## コラボレーション アプリケーションを 制限する

追加のライセンスが必要になるため、短期的には、財務部門と協力して「保留になっている」支出（たとえば、出張やイベントの費用）を回してリモートワークを可能にします。



## ローカルインターネット ブレイクアウトを導入する

従業員を安全にリソースにダイレクト接続することで、攻撃対象領域が少なくなり、VPNボトルネックが軽減されます。



ゼットスケラーのSASEクラウドネイティブサービスアーキテクチャを採用することで、リモートワークやWFA (Work From Anywhere) モデルをどのように実現できるか、右記リンクのPDF資料にまとめております。ぜひご覧ください。  
・本資料のポイントを**インフォグラフィック**でもご紹介しています。

[PDF資料を読む](#)